

**【教員氏名】**

孟 哲男

**【単位数】**

2 単位

**【演習概要】**

本講義では経済学を学ぶ上で、最低限理解しておく必要がある数学を基礎から復習しつつ身につけることを目的とします。毎回の授業は基本的に、「前回の演習問題の解説」→「公式や例題の解説」→「問題演習」という流れで進めていきます。なお、受講生のレベルに応じて講義の内容および演習問題の難易度を微調整していく予定です。

**【学習目標】**

高校レベルの数学が経済学においてどのような形で応用されるかを実感してもらい、また例題を十分理解し自分で演習問題が解けるようになることを目標とします。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：数学記号と演算
- 第3回：一次関数とグラフ
- 第4回：グラフ、連立方程式の応用（需要・供給分析、余剰分析）
- 第5回：グラフ、連立方程式の応用（45度線分析）
- 第6回：数列とその応用例
- 第7回：二次関数とグラフ
- 第8回：グラフの平行移動
- 第9回：指数、対数
- 第10回：導関数の概念
- 第11回：微分の法則
- 第12回：微分の応用例（利潤最大化問題）
- 第13回：微分の応用例（価格弾力性）
- 第14回：総復習（1）
- 第15回：総復習（2）

**【成績評価の方法】**

試験評価：100% レポート：0% 出席：0%  
「試験」の得点のみで評価します。

**【参考文献】**

E. ドウリング（1995）（大住栄治・川島康男訳）『例題で学ぶ入門・経済数学』シーエーピー出版。  
石川秀樹（2009）『経済学と経済学に必要な数学がイッキにわかる！！』学習研究社。  
木村哲三・浦田健二（2010）『経済学を学ぶための基礎数学』同文館出版。

**【準備学習の指示】**

授業中に配布した演習問題は、例題を参考にして最初から最後まで自分で解くこと。なお、授業中に解き残された演習問題は、次回の授業開始前までに必ずやってみること。ただ単に解説を聞く・見るだけでは上達しません。  
配布したプリントは、最後の復習の時にも使われますので、まとめて保管し、毎回持参すること。

**【備考】**

テキストは指定しません。  
毎回の授業でプリントを配布しますし、各回の講義内容は基本的に前回の講義内容と強く関連していますので、毎回の出席が望ましい。